出島遺跡見学会

令和６年１月３０日（火）
長崎市　文化観光部　出島復元整備室

# 出島和蘭商館跡　発掘調査遺跡見学会

国指定史跡　出島和蘭商館跡では、平成８年から本格的に復元整備事業をはじめ、これまでに１６棟の１９世紀初頭の建物を復元しています。

今年度からは、あらたにⅣ期復元整備事業に取り組み、出島町人部屋の復元を予定しています。復元を行うためには、最初に発掘調査によって、建物の遺構を見つけ、その位置や規模を明らかにすることが必要です。このため、令和５年１０月から準備をはじめ、１１月から発掘調査を行いました。今後は、建物の基本設計、実施設計、外構設計、工事等を行い、令和１０年度以降の完成を目指します。

**出島町人とは**

出島町人とは、出島を築造した 25 名の町人のことで、出島完成後は、出島の家主になった人たちです。出島家賃銀の配分を得る一方で、壊れた居宅や蔵の修理等の費用を負担しました。

出島の絵画史料のうち、平面図には、それぞれの建物の所有者の名前が記され、時代とともに出島町人が変化する様子が分かります。

第Ⅳ期復元建物完成イメージ図

第Ⅳ期復元予定建物　出島町人部屋　間口５間・奥行３間

外構整備予定建物　　番所・十五番蔵

# 出島町人部屋跡の発掘調査

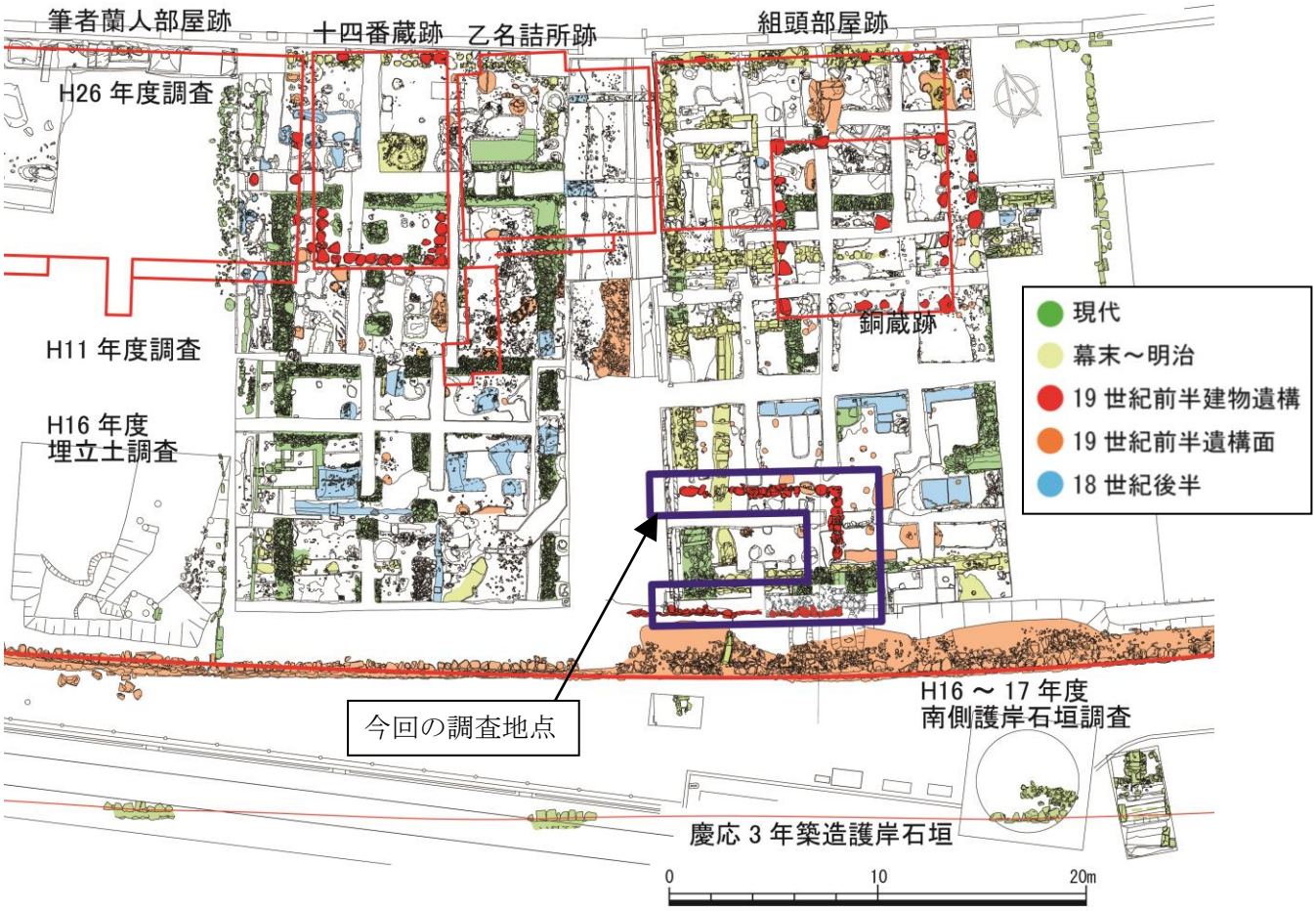
この地点は、平成 25 年度にすでに発掘調査を行っていましたが、今回は、出島町人部屋の復元を目指し、基本設計を行うため、再調査を実施しています。建物の礎石の構造を明らかにするため、必要な部分だけを掘削し、以前の調査成果と照合、合成しながら、最終的な成果をまとめます。

## 【幕末から明治の建物】

この場所には、幕末頃、海軍伝習所のオランダ人教官や技師らが居住していましたが、安政６年（1859）に発生した火災によって、彼等が居住していた建物が焼失しました。遺跡からは、そのときの火災層が見つかっています。また、その後建てられた洋館（L クニッフラー商会所有）に関係する溝やアマカワなども見つかりました。

町人部屋跡の礎石

## 【19 世紀前半の建物の礎石】

19 世紀前半の整地面から、L 字型に並んだ礎石列が見つかりました。礎石は、安山岩の自然石を中心とした石列で、全体的な位置関係と検出された整地面から、出島町人部屋の礎石の一部と推察されます。

また、南側護岸石垣に近い箇所から、石積が見つかりましたが、1859 年の火災層がその上部に堆積していたことから、19 世紀中頃の出島町人部屋の礎石であった可能性が高いと見ています。